

## 裏磐梯の自然とわたし

二年一組 R.T

私が自然体験学習で裏磐梯に行き、学びたかったことは自然の神秘です。元々自然に興味があったのですが、偶々学校の花壇を見て「自然の植物と花壇の植物では、どこが違うのかな」と疑問に感じたことから二つのコースを選びました。雨水で育ち、化学肥料を使わない環境で、虫や動物たちと共に生きているものを見て確かめたいと思いました。銅沼の資料を見たとき、周りの植物がどうなっているのかがとても気になり、磐梯山火口のコースをまず選びました。もうひとつのコースは後ほど解説します。「銅」は名前のおりどおりで、鉄分を多く含んだ赤茶の沼で、強い酸性でした。なので、動物は一匹もいませんでした。しかし、植物は生えていました。なんと、沼の周りだけではなく、水草も生えていました。



動物より植物のほうが、過酷な状況で生きて行けるので、すごいと思いました。当日は雨が降っていましたが、晴れたらもっと素晴らしい景色になると思います。いつか晴れた日に行ってみたみたいです。

後、中の湯温泉という温泉の跡地に行ってきました。

遠くからでも硫黄のにおいがしたので、露天なんだなと思いました。その温泉は今も湧いているみたいで、ポコポコとお湯が噴き出していました。でも、雨の影響で水になっていました。



その時に、噴火のときの凄まじさを体験した僧侶の話を知りました。といっても、当時の事を書き記しものを読んだので、聞いた、とは少し違いますね。

溶岩が飛んできたりと、立っていることさえ出来なくなるくらいだったそうです。

さて、二日目は一日目の倍の時間を使って、私は五色沼に行きました。

一日目もそうだったのですが、ウルシのことについて先生から注意を受けました。

そして、ツタウルシのことについても注意を受けました。ウルシよりツタウルシのほうが酷いみたいです。

ガイドの先生は日ごとに違いましたが、二日間続けて言われるという事はよっぽど危険なんだな、と思いました。

それはそうと、私は五色沼には二回ほど行ったことがありました。

その二回とも夏だったので、秋にはどんな植物が生えているのか、沼に変化はあるのか、とても気になりました。なので、見るのが楽しみでした。

その時に、ニシキゴイの意外な事実を知ることができました。

ニシキゴイは、本来自然界にはいない存在なんだそうです。

それを始めて聞いたとき、びっくりしました。

まだその衝撃がぬけないままブナ林を進んで行きました。

暫らく進むと、大きな岩がありました。

その岩の近くに、四本くらい纏まって生えている木がありました。

樹齢何百年位かと思ったらまだ 100 年くらいだと聞いてびっくりしました。でも、噴火が 123 年前に起こったのですから、123 歳以上の木は存在しませんよね。

それにしても、100 年でとても大きくなっていました。思った以上に生長が早くて本当に驚きました。

植物って、本当に侮っちゃいけませんね。

いろいろ分かってよかったです。

話を五色沼に戻しますが、本当にきれいな沼でいっぱいです。

噴火でせき止められた川に水が溜まってできた沼が五色沼だそうです。五色沼って、兄弟みたいなものですね。

五色沼のことと同時に知ることができたのは、私たちがどれだけ自然を痛めつけているかです。

裸地化してしまった大地、外来生物を持ち込んだり…。

今は流石にポイ捨てなんかは無いでしょうが、小さなことが大きな問題に発展してしまうのを、誰が予想できたでしょうね。

五色沼探索が終わった後、バスが来るころまで少し歩きました。

帰り道、トンボを捕まえたり蝉をみつけたりしました。楽しかったです。

さて、長いようで短い三日の内、もう二日目は終わりを告げようとしています、その前にキャンドルサービスのことも書きたいと思います。

急にクラスで出し物をやる、と発表されてから、皆で考えてやりました。楽しかったですが、それ以上に JTB の富吉さんのお話が心に残りました。

三月十一日の東日本大震災、そして 1995 年の阪神淡路大震災のことを聞きました。

ただテレビを見ているだけで「大変そうだなあ」と思った過去の自分とそれ以上の地震を体験した今の自分のことをとても真剣に話してくださいました。

私の家は大きな被害も無く、液状化も起こりませんでした。家のすぐ近くで液状化が起きていました。

その事と照らし合わせながら聞くと、本当にぞっとしました。

同時に、富吉さんの話に感動しました。

複雑な想いが蠟燭に表れていたのか、炎がより揺らめいているようにみえました。スーパーで募金箱をたまにみかけます。募金も大切だと思いますが、被災地に行くことも大切だと思います。募金だけじゃ届けられない何かを届けられると思います。話がずれてしまいますが、福島に行く少し前の事話したいと思います。着替え等を入れてある大きなバックを先に届けてもらう、という事でその荷物を学校に持っていった日のこと、パトロールをしていた PTA の方が「修学旅行？」と聞いてきたので「林間学校に行きます」と答えたら「なに県？」と聞かれました。「福島の裏磐梯です」と言いました。その方はとても驚いていました。放射能の事を心配していたのでしょうか。ですが、私たちが住んでいるところより、裏磐梯のほうが若干放射能が低いのです。その事を思い出しながら聞いていると、本当につらかったです。ですが、私たちが実際に行くことで、福島は本当はこうだった、と多くの人に伝えられると思います。行き先を変えず、そのままにして本当によかったです。キャンドルサービスは、ただ楽しいだけのものではなく、心に響くとても素敵なものになりました。さて、いよいよ最終日です。三日目はウォークラリーがありました。とても長い 12km で、終わったときには座るのが辛かったです。そんな事がありましたが、自然の中を歩いていて気持ちよかったです。途中で写真をとったり、少し寄り道して遠藤幻夢のお墓に行きました。幻夢とは、五色沼周辺の植物を植えた方です。立ち止まっては「これは噴火で土砂崩れした時に降ってきた一番大きな岩なんだよ」など、学んだ事をいろいろ語っていました。ウォークラリーは、二日目に行った五色沼も通ったので、ちょっと自慢できて嬉しかったです。どれもこれも、ほとんど先生から教わったものだったけど、ちょっと誇らしかったです。更に「これって外来種なんだよね」と日は違えど同じコースを歩いた人と少し喋りました。人に何かを教えるのもいいですが、話の通じる人と喋るのも楽しいですよ。ウォークラリーにはクイズもあって、「これ、何？」というものも実際に見ることができて嬉しかったです。ウォークラリーは予想以上に時間がかかってしまい、大変でした。ゴールに着いたときにはとても楽になりました。それと同時に、もうお別れなんだなあ、と思い、寂しくなりました。千葉から来た私たち笑顔で迎えてくれた福島の皆さんが、とても優しかったのを覚えて

います。

三日間という短い間に、こんなにいい思い出ができるとは思いませんでした。

風評被害や本来みんなにあるはずの帰る場所がなくなってしまった事に心を痛めているであろう方々が、心から笑って迎えてくれて「どこからきたの？」と興味を持って聞いてくれました。「千葉の我孫子市からです」と答えると目を輝かせて「よく来てくれたね、ありがとう」と言ってくださいました。

私も嬉しくなりました。しかし、途中でどんな顔をして挨拶すればいいのかわからなくなってしまった時がありました。

そんな時、たまたま近くを通り過ぎたかたが「こんにちは」と明るく声をかけてくれました。

その時に「やっぱり笑顔でいいんだ」と改めて思いました。

まだまだ傷は癒えないと思いますが、一日でもはやく問題が解決する事を祈ります。

私もできることをやっていきたいです。

今回自然や人の絆について学んだことは、今後の生活に役立てていきたいです。